

された方々に、心からお見舞い申し上げます。

近年の自然災害は激甚化・多様化・多発化してきております。町民の皆様の安心・安全を確保する観点から、防災・減災への取り組みをさらに進めることが肝要であると感じております。

なお、コロナ対策支援や災害支援として町内外の多くの方々から支援金や支援物資を寄贈いただきました。この場をお借りして関係者の皆様方に改めて御礼申し上げます。

次に、農業の分野におきましてはサツマイモ基腐病の被害が県内全域で深刻な問題となっており、さらには、宮崎県の養鶏場において、鳥インフルエンザが確認されるなど予断を許さない状況でございます。このため、関係機関団体等との迅速な情報共有や連携強化に努めてまいりたいと考えております。

さて、我が国はいよいよ人口減少時代に突入しております。

すが、本町においても少子高齢化対策、人口定住対策は、地域の活力や発展を握る重要な課題であると認識しております。古くから人の交流が盛んになるほど、地域は活性化するとされています。そういった面からも東九州自動車道（志布志〜鹿屋串良間）が早期に供用開始されることを待ち望んでいるところでございます。7月豪雨等の影響もあり事業の進捗が遅れが出ており、開通見込みが令和3年夏頃に延びておりますが、供用開始後は交流人口の増加や地域産業の振興、輸送時間の短縮、大規模災害時の避難道などその効果を大いに期待しているところであります。

また、気候変動問題の深刻化を背景に、世界各国で脱炭素化の取り組みが進んでおりますが、我が国においても小泉環境相がリサイクルを促進するため、プラスチックごみを分別回収している自治体への財政的支援を優遇したいとの意向を示しております。本町はこれまでも先進的な取り組みを続けてきており、その延長線上にある持続可能な開発目標（SDGs）においても、

SDGsアワード内閣官房長官賞やSDGs未来都市選定などの栄誉を受けております。町民の皆様のご理解・ご協力に對しまして、改めてお礼を申し上げます。今後もこの取り組みの輪をさらに広げていくため、人材育成やSDGsの普及啓発を推進するための協議会を今月設立いたしますので、皆様方には引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、ふるさと納税につきましては、地元企業・事業所や生産者の皆様のご協力に加えて大崎町ふるさと特産品振興事業協同組合による事業者間の連携などにより、令和元年度は約28億4千万円のご寄附をいただくことができました。今年度も関係各位と力を合わせて、大崎町と本町産品の魅力発信等に努めているところでございます。

この他にも、住民に一番身近な自治体として、多様化する住民ニーズへの対応や、少子・高齢化への対応や農林水産業・商工業の振興、スポーツを核とした活性化策など、様々な課題の解決に向け、職員と共に全力で取り組ん

でまいりますので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない状況であり、加えてインフルエンザの感染対策にも配慮が必要な時期であることから、今年度の成人式と消防出初式はやむなく中止することといたしました。このような状況でございますので、町民の皆様におかれましては、密閉・密集・密接のいわゆる三密の回避や、マスクの着用、手洗い・消毒、換気などの新しい生活様式の実践を引き続きお願い申し上げます。

結びに、本年が町民の皆様にとりまして、健康で喜びと幸せに満ちた一年となりますことを心からお祈りし、年頭のあいさつといたします。

令和3年1月

大崎町長

東 靖弘

# 豊かな自然が宝物 みんなで紡ぐ結の町